

(33) ジャガイモ(バレイショ)

1 主要な作型及び病害虫の発病・加害時期

春植え

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培暦		◎										
そうか病												
黒あざ病												
疫病												
テントウムシ ダマシ												

◎植え付け □ 収穫

2 主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
そうか病 (<i>Streptomyces</i>)	①石灰質資材の施用を控える。土壌pHの低下のためには硫酸などの酸性肥料を用いる(pH 5以下になると収量が減少するので注意が必要である。) ②種いもで伝染するので無病の種いもを用いる。 ③いもの肥大期に畑に灌水することで発生を軽減できる。 ④連作、過作を避ける。 【参考事項】 数種の<i>Streptomyces</i>属菌が関与し、種によって症状が異なる。テンサイ、ダイコン、ニンジン、カブなどほとんどの根菜類を侵す(寄主範囲の確認されていない種もある。) 土壌が中性か弱アルカリ性の場合は発病しやすく、酸性土壌では少ない(酸性土壌で発病する種もある)。 塊茎形成期(着蕾～開花始期)に地温が高く、乾燥すると多発する(多湿条件で多発する種もある)。 土壌中では植物残さ、家畜排せつ物などの未熟有機物で腐生生活をし、長期間生存する。
黒あざ病 (<i>Tanatephorus</i>)	①無病の種いもを用いる(表面に菌核があざ状に付着していないことを確かめる。) ②深植えし過ぎない。 ③高畝栽培により土壌湿度の低下をはかる。 ④掘取りは茎葉枯死後7～10日以内に行う。 ⑤激発地ではジャガイモの栽培を4～5年間行わない。 【参考事項】 菌糸融合群3群(培養型IV、ジャガイモ低温系)と2群2型(同IV、テンサイ根腐病系)がジャガイモを侵す。前者は主に種いも伝染し、はじめは幼茎、のちにストロン、塊茎を侵し、後者は主に土壌伝染し、高温多湿時に茎の地際を激しく侵す。 菌核は、いも上又は土中で数年生存する。
疫病 (<i>Phytophthora</i>)	①無病の種いもを植える。 ②排水を良好にする。 ③窒素肥料の過用を避ける。 ④発病後は土寄せを行い、地中のいもを保護する。 ⑤掘残しがないように収穫する。 【参考事項】 気温が15℃ぐらいで曇雨天が続いたあとに発生しやすい。 発病初期に防除の重点を置くことが重要であるので、早期発見に努める。
軟腐病 (<i>Pectobacterium</i>)	①無病の種いもを植える(本病が多発したほ場で生産された種いもを使用しない。) ②窒素肥料の過用を避ける。 ③早期培土をしない。 ④連作をしない。 ⑤排水をよくする。 【参考事項】 多くの畑作物、野菜を侵す。 病原菌は土壌中に残る。 高温多湿条件下で発病が多い。 降雨直後の作業は発病を助長する。

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
アブラムシ類	①畝全面を銀又は白色フィルムでマルチする。 ②周辺雑草を早めに除去する。 【参考事項】 ジャガイモヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシが寄生する。 アブラムシの種によって効果のある農薬が異なるので、農薬の選択に注意する。
テントウムシダマシ類	①ほ場周辺のナス科雑草を除去する。 【参考事項】 ナス科植物を加害する。 成虫・幼虫ともに葉を加害する。 中山間地にはオオニジュウヤホシテントウ、平坦地にはニジュウヤホシテントウが多い。
ハリガネムシ類	①被害の多いところでは輪作に注意し、加害の少ない作物と輪作する。 【参考事項】 コメツキムシ科の幼虫の総称で、加害種はマルクビクシコメツキなどである。 加害の多い作物：ムギ、トウモロコシ、イネ科牧草、ジャガイモ、サツマイモ、カブ、ニンジン、タマネギ 加害の少ない作物：ソバ、アマ、ナタネ、マメ類、キュウリ、トマト、ナス、ゴボウ
ジャガイモガ	①種いもは発生地のもを使用しない。 ②ほ場では残茎葉を適切に処分する。 ③露出いもを生じないように栽培管理する。 ④掘残しがないように収穫する。 ⑤貯蔵いもでは早期発見に努め、被害いもは処分する。 【参考事項】 1年に7～8回発生する。 夏季の少雨乾燥により多発する。 タバコ、ナスなどのナス科作物に被害を与える。 春作では4～6月、秋作では9～11月に発生するが、9月中旬～下旬に最も発生が多い。 幼虫の加害は萌芽直後から始まるので、下葉や心葉の食害を見逃さないようにする。